



最新情報は当社ホームページ (http://www.kopropro.co.jp) でもご紹介いたしますので、ぜひご覧ください。

このソフトウェアで出来ること

このソフトウェアではHELIOSの設定を外部のパーソナルコンピュータで行うことが出来ます。HELIOS本体では、9台のモデルメモリを持っておりそれぞれのモデルメモリに設定を保存できるわけですが、外部のパーソナルコンピュータを組み合わせることで、簡単にまた、より多くのデータを取り扱うことが可能になります。

ソフトウェアのインストール

特別なインストール用のプログラムはありません。パーソナルコンピュータ上のハードディスクに適当なフォルダを作成して、プログラム本体をコピーしてください。標準状態では、同じフォルダ内にデータが、保存されます。また、プログラムのショートカットをデスクトップ上に作成すれば、起動が便利になります。

ソフトウェアの使用環境

このソフトウェアはWindows98以降で使用可能です。また、通信用にRS-232Cポートが最低1個必要になります。ノートパソコンなどで、232Cポートが無い場合には、USB-232C変換アダプターを使用することにより動作する可能性はありますが、動作保証はできませんので、ユーザー側での自己責任により使用してください。カスタムトーンのリビュー機能を使用するために、MIDI音源が必要です。

接続

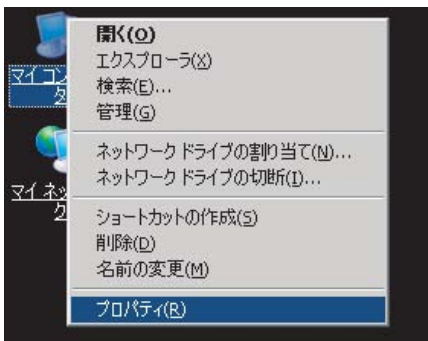
HELIOS本体とパーソナルコンピュータを接続するために、パソコン側の232Cポートに KO ICS PCインターフェースを、またHELIOS側には、マルチアクセスポートに、ICS コミュニケーションアダプタを接続します。さらにコミュニケーションアダプターをPCインターフェースに接続します。

このソフトウェアは、フリーソフトウェアとしてリリースいたします。ただし、法律上の著作権ならびに諸権利は近藤科学(株)にあります。許可無く配布または改造等の行為については禁止いたします。また、ご使用に際して生じた不具合、損害などに関しましては、近藤科学はその責を負いません。以上のことに同意していただいた上でご使用ください。

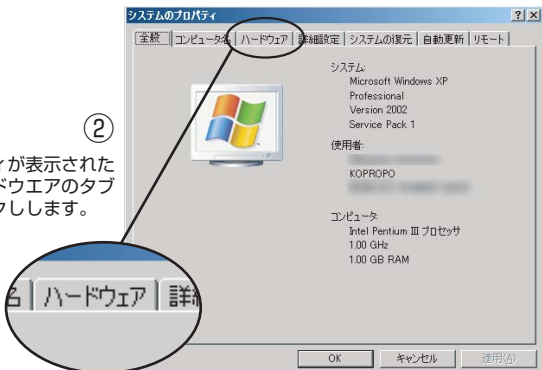
コミュニケーションアダプタをHELIOSに脱着する際には、電源を切った状態で行います。

準備 - 232Cポートの確認 -

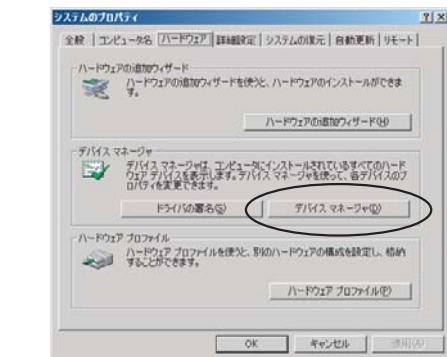
ソフトウェア側で232Cのポート番号を指定する必要がありますので、パソコン側で使用できる232Cポートを確認しておく必要があります。パソコン本体に、232Cポートがある場合には、ほとんどの場合COM1または、COM2ですが、前述したUSBアダプターを使用した場合などは、別の番号になる場合がありますのでこの確認手順を説明します。なお、この手順は、WindowsXpの場合の画面です。



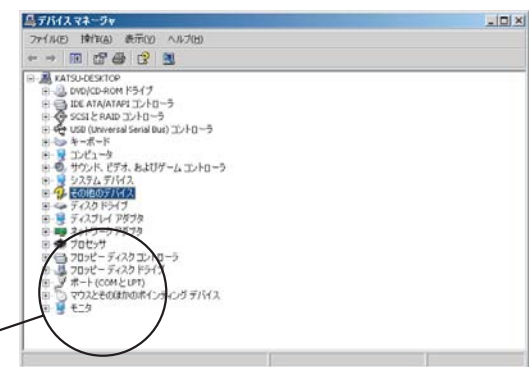
① マイコンピュータを右クリックして、プロパティを選択します。



② プロパティが表示されたら、ハードウェアのタブをクリックします。



③ ハードウェアのタブが開いたら、デバイスマネージャをクリックします。



④ デバイスマネージャが開いたら、下の方のポート (COMとLPT) を見ます。(左の+をクリックすると展開して表示されます)



⑤ 展開して表示させたのが右の図です。この例では、通信ポートとしてCOM1と2が認識されているのがわかります。

ここで確認したCOMポートの番号のうち、実際にインターフェースを接続したポートを、HELIOS の設定ソフト側でも指定しますから、忘れないようにしてください。なお、この画面は、例ですので、Windowsのバージョンや、お使いのハードウェアなどによっては、表示が異なる場合があります。

ソフトウェアを使用する

ソフトウェアの起動

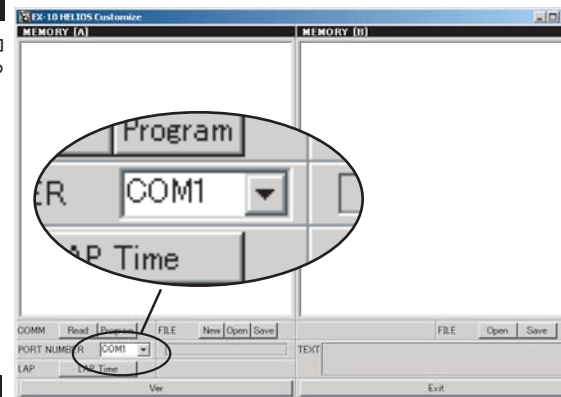


デスクトップに、置いたソフトのショートカットのアイコンをダブルクリックします。(ウィンドウの設定によっては、シングルクリックで起動する場合があります。)

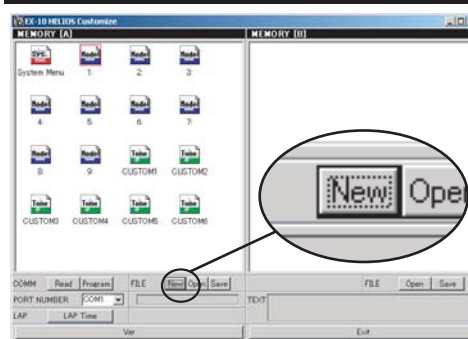
ソフトウェアが起動すると、オープニングウィンドウの表示後に右のウィンドウが表示されます。

- 1、データを編集するだけの場合。(HELIOSと通信を行わない場合。) 特に設定する必要はありません。次のステップに進んでください。
2、HELIOSのデータを取り込んだり、書き込んだりする場合。

インターフェースを接続した、パーソナルコンピュータの通信ポートの番号を、設定する必要があります。ウィンドウ左下の、「PORT NUMBER」で通信ポートの番号を選択してください。この場合の番号は、最初のページで確認した番号を指定します。



新規にデータを作成する



「NEW」のボタンを押すと、ウィンドウ左側に、新規にデータが作成されます。これで作成されるデータは、HELIOSの工場出荷時のデータとほぼ同じものです。データは大きく分けて4種類に分けることが出来ます。。

- SYS (システムデータ) : HELIOS本体内のメインメニューで設定する項目に相当します。
Model (モデルデータ) : HELIOSのモデルメモリ別のデータです。
Tone (トーンデータ) : HELIOSのカスタムトーンの設定データです。
パッケージデータ : 送信機1台分のデータをまとめたデータです。

メインウィンドウのOpenとSaveで扱うデータは、パッケージデータです。それぞれのアイコンで右クリックしたとき、またはそれぞれの設定画面を開いたときのOpenとSaveでのデータは、それぞれ個別のデータファイルになります。

- \* 右クリックでの操作については、この説明書の最後に説明があります。
\* データファイルは拡張子で区別されます。パッケージファイル (\*.kpp)、データファイル (\*.kpd)

それぞれのアイコンをクリックすることで、ウィンドウが開き、設定値の変更及び編集が出来ます。また、個別にHELIOSに書き込んだり、ディスクに保存したりすることが出来ます。

データを変更、編集する。 表示されているシステムメニューのアイコンをダブルクリックすると、設定編集用のウィンドウが開きます。

SYSデータ (システムデータ)

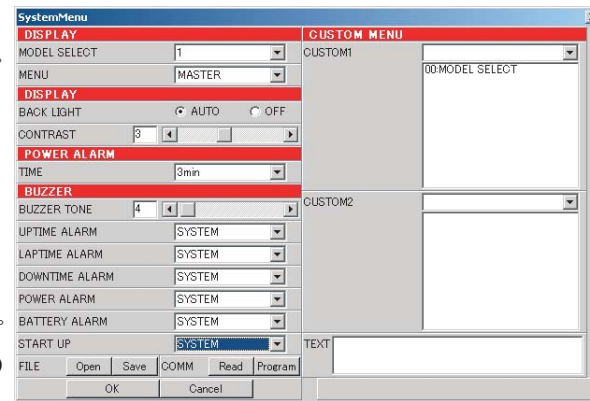
システムデータをHELIOS本体に書き込みを行った場合、送信機側の電源を入れ直す必要がありますので注意してください。

- DISPLAY MODEL MEMORY : 使用するモデルメモリを指定します。送信機本体でのモデルセレクトと同じ働きます。
MENU : 使用するMENUを指定します。本体のチェンジメニューです。
BACK LIGHT : バックライトの設定です。AUTOとOFFから選択します。
LCD CONTRAST : LCDの表示濃度設定です。
POWER ALARM TIME : パワーアラームの警告時間を設定します。
BUZZER BUZZER TONE : システムが使用するブザー音の音程を設定します。
UPTIME ALARM : アップタイマーに使用するアラーム音を選択します。
LAPTIME ALARM : ラップタイマーに使用するアラーム音を選択します。
DOWNTIMER ALARM: ダウンタイマーに使用するアラーム音を選択します。
POWER ALARM : パワーアラームに使用するアラーム音を選択します。
BATTERY ALARM : バッテリーアラームに使用するアラーム音を選択します。
STARTUP : 起動時のブザー音を選択します。
CUSTOM MENU (HELIOS本体の取説 P17,P26なども合わせてお読みください。) HELIOSでは、ファンクションメニューで使用するメニューを、MASTER、CUSTOM1、CUSTOM2から選択して使用します。ここでは、CUSTOM1と2の登録内容の編集を行います。

- メニューの登録 : 上の、ドロップダウンリストから、ファンクション名を選択すると、下のリストにそのメニューが登録されます。
メニューの並び替え : 登録したリスト内で、ドラック&ドロップで表示順の変更を行います。
メニューの削除 : 反転表示しているメニュー名は、キーボードの「DELキー」で削除されます。また、リスト内の右クリックで削除、すべて削除が選択できます。「削除」で1個だけの削除。「すべて削除」でリストは空になります。
TEXT 設定内容に関してのコメントを記入します。記入した内容を残したい場合には、ファイルへの保存を行ってください。HELIOS本体には保存されませんので注意してください。

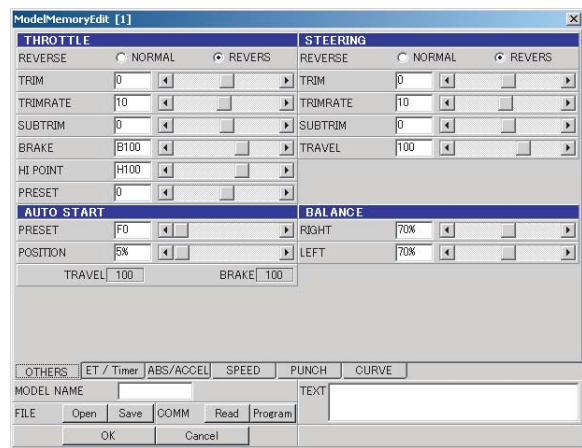
各ボタンの操作 HELIOSに対する操作は、接続されていない状態で行うと、エラーが発生する場合があります。

Table with 3 columns: Button Name, Action, and Description. Includes FILE (OPEN, Save), COMM (Read, Program), and OK (Cancel).



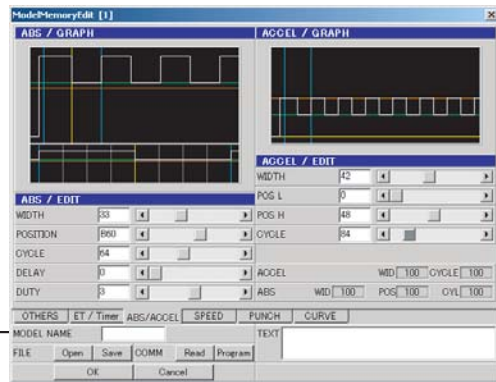
データを変更、編集する。表示されているシステムメニューのアイコンをダブルクリックすると、設定編集用のウィンドウが開きます。

## モデルデータ



HELIOS本体のファンクションメニューの機能の設定が行います。それぞれの機能の働きについては送信機本体の取り扱い説明書を読んで理解しておく必要があります。設定内容によっては、グラフが表示されて、視覚的に確認しながら設定を行えます。

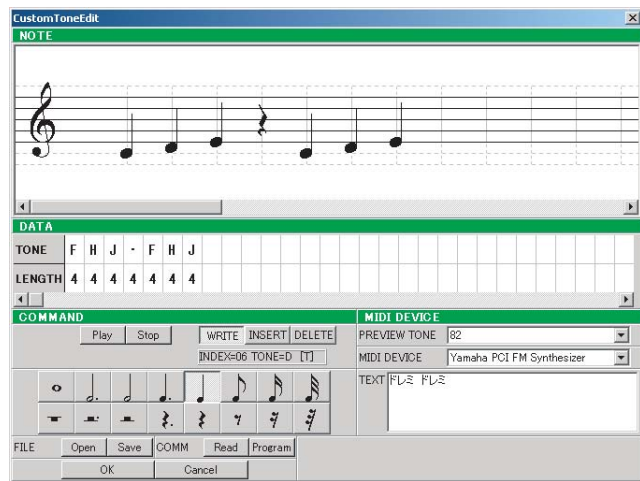
設定内容は、モデルメモリ別の保存もできますので、送信機本体のモデルメモリ数の制限に関わらず、多くの設定を残して置くことが可能です。さらに、保存したモデルメモリは、自由に読み込みますから、送信機本体に転送する組み合わせを制限無く作成が可能です。



- 各ボタンの操作**
- File Open : ディスクに保存してあるモデルメモリデータを読み出します。
  - FILE Save : 現在の設定画面のモデルメモリの内容だけを、ディスクに保存します。
  - COMM Read : HELIOSから、表示中の設定画面のモデルメモリデータだけを読み出します。
  - COMM Program : 現在の設定画面のモデルメモリだけを、HELIOSに転送します。

## カスタムトーン

HELIOSが持つカスタムトーンの設定編集が行えます。データを入力するには、HELIOS本体と同じく数値による方法のほかに、より直感的な、音符を置いていく方法でも行うことができます。



**音符を置く**  
メロディーの楽譜がある場合には、直接音符を置いていくことで、簡単にメロディーの作成が出来ます。下の音符ボタンで置く音符の長さを選択して、コマンドのボタンは「WRITE」を選択しておきます。五線譜をクリックすれば、音符が置かれメロディーの入力が出れます。

**音符を置き換える**  
WRITEのボタンを押した状態で、NOTEの音符が置いてあるところをクリックすると、上書きになります。音の長さは現在選択している、音符の長さに置き換わります。また、同じ時間軸上でクリックすれば、音の高さを変えて上書きも出来ます。

**音符を挿入する**  
「INSERT」のボタンを押している状態では、音符を置いている場所をクリックすると、その場所に新たに音符を置くことが出来ます。元あった音符は、後ろへ移動します。新たに置く音符の長さは、そのとき選択しているボタンによって変わります。

**音符を削除する**  
「DELETE」のボタンが押されている状態で、クリックすると、その場所の音符が削除され、その後ろの音符が、前に詰められます。

### データ入力 (数値入力)

HELIOS本体での、カスタムトーンの編集と同じことが行えるのが、データセクションです。上の段は、音の高さを、A~Zのキーボード入力で指定します。また、ピリオドを入力すると休符になります。下の段は、音の長さです。1~8の数字で指定します。ここで入力されたデータは、上のNOTEの音譜表示にもすぐに反映されます。

### PLAY (入力したメロディーを再生する。)

パソコン上のMIDI音源 (ミディ) で入力したデータを開くことができます。この機能を使用するためには、パーソナルコンピュータにMIDI音源が搭載されており、スピーカーなどで、MIDI音源を鳴らすことが出来る必要があります。

### MIDIのデバイス設定

メロディーの再生を行う場合のMIDI関連の設定を行います。左のMIDI DEVICEで、使用する音源を指定します。ソフトウェアを起動した状態では、何も表示されていませんのでクリックして使用する音源を指定します。通常は、1個しか表示されませんが、環境によっては2個以上のデバイス名が表示される場合があります。さらに、PREVIEW TONEで使用する音源の番号を指定します。最初は82番の指定になっています。音符が入力されていて、MIDI音源が使用できる状態であれば、左の「PLAY」ボタンを押すことで、音が鳴ります。しかし、必ずしも、音色が、HELIOSのプザー音と同じような音になるとは限りませんので、PREVIEW TONEで近い音色を選択してください。

### 再生のストップ

長いメロディーを入力して再生し、途中で止めたい時には、「STOP」のボタンを押します。

## お問い合わせ先

近藤科学株式会社サービス部 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里4-17-7 TEL: 03-3807-7751 受付時間: 月曜日~金曜日 (祝祭日を除く) 9:00~12:00, 13:00~17:00

※この操作説明書中の、会社名及び、商品名はそれぞれの商標または登録商標です。

## メインウィンドウでの操作

### アイコン

メインウィンドウには、データを新規に作成した場合や、読み込んだ場合に送信機1台分のデータが、表示されます。データは、内容によって違うアイコンで表示されて識別しやすいようになっています。

**Sys.** システムデータとして設定される内容を示すアイコンです。このデータは送信機に1個しかありません。

**Model** モデルメモリデータをあらわすアイコンです。送信機1台に対して9台のモデルメモリが登録されます。また、現在選択されているモデルメモリ (HELIOS本体で表示される) のアイコンは、赤く線取りがされます。アイコンの下には、モデルナンバーとモデルネームが表示されます。モデルネームは、クリックすることで直接編集が可能です。登録できる文字は10文字ですので、それ以上の長さを入力したり、HELIOS本体で使用できない文字を入力した場合には、10文字分までに削られて表示されます。

**Tone** カスタムトーンを示すトーンデータです。

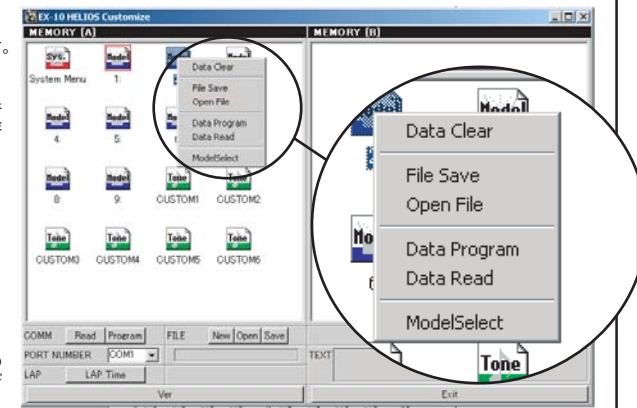
**CUSTOM1** それぞれのアイコンは、クリックすることにより、設定画面が開いてデータの入力や編集が出来ます。

### 右クリックによる操作

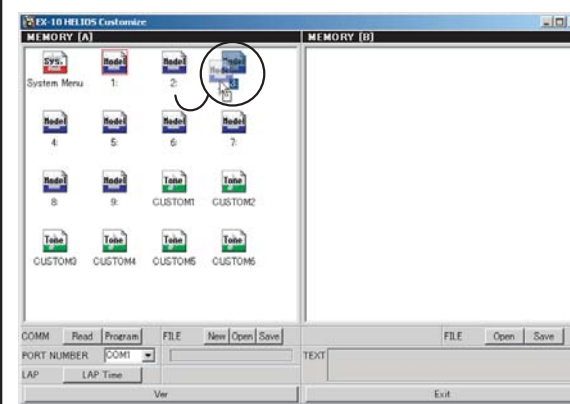
メインウィンドウでは、マウスの右クリックを使用することによって、便利な使い方が出来ます。

アイコンを右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

- Data Clear** 選択しているアイコンが示すデータの内容を工場出荷時に戻します。カスタムトーンの場合には、データが消去されます。
- File Save** 選択しているアイコンのデータだけをディスクに保存します。実行するとファイル選択のダイアログが表示されて、名前をつけて保存することが出来ます。
- Open File** 選択しているアイコンのデータだけをディスクから読み出します。
- Data Program** 選択しているアイコンのデータだけをHELIOSに書き込みます。HELIOSが接続されて電源が入っている必要があります。
- Data Read** 選択しているアイコンのデータだけをHELIOSから読み込みます。HELIOSが接続されて電源が入っている必要があります。
- Model Select** このメニューは、モデルメモリーのアイコンだけで使用できます。モデルセレクトで選んだモデルメモリーは、アイコンに赤い枠がついて表示されます。このメニューを選ぶことで、送信機本体のモデルセレクトと同じ操作を行うことが出来ます。



### ドラッグ&ドロップ操作によるデータコピー



モデルメモリーは、ドラッグ&ドロップの操作を行うことで、モデルコピーと同じことが行えます。上の例では、モデル2をモデル3にコピーしています。

モデルコピーと同じように、カスタムトーンも、コピーを行うことが出来ます。

### ご注意

この画面上で行った操作は、あくまで、パーソナルコンピュータのメモリ上で行っていますから、ディスクへ保存またはHELIOSへ転送などを行わないと、ソフトウェアの終了と同時にデータは失われてしまいます。

### LAPTIME

LAPTIMEのボタンを押すことで、ラップタイムの読み込みや保存が出来ます。LAPTIMEは、HELIOSからの読み込みとファイルへの保存、ファイルからの読み込みが可能です。しかし、仕様上、ラップタイムデータのHELIOSへの書き込みは出来ません。

メインウィンドウのなかで、MEMORY (A)は、ファイルからの読み込み、書き込み (保存) と同時に、HELIOSからの読み込みと書き込み (データ転送) が出来るようになっています。また、Newのボタンを押すことで、新規のデータ (工場出荷時のデータと同じ) を作成することも出来ます。これに対して、MEMORY (B)は、ファイルからの読み込みと保存しか出来ません。

モデルコピーは2つの表示メモリーの間でも、行うことが出来ます。下の例ですと、Aの2番のメモリーをBの2番にコピーしています。  
※システムデータは、このメモリー間での操作でコピーします。

